

第 31 回 北九州市環境審議会

1. 日 時 平成 24 年 2 月 15 日 (水) 15:00～17:00

2. 会 場 リーガロイヤルホテル小倉 3階 オーキッド

3. 出席者 (敬称略)

会 長 浅野直人

委 員 泉優佳理、小野勇一、北野久美、後藤雅秀、自見榮祐、白石佳則、末広勝嘉
土井智子、西道弘、花崎正子、番野宅二、樋口壯太郎、本田忠弘、諸藤見代子、
八記博春、吉崎邦子 (50 音順)

事務局 今永環境局長、加茂野環境政策部長、諫山循環社会推進部長、山下環境監視部
長、小林環境未来都市推進室長、松永環境都市調整担当部長、内藤環境国際戦
略室長、石田アジア低炭素化センター担当部長、大原環境科学研究所所長、佐
藤総務課長、石井環境学習課長、渡部環境広報担当課長、作花循環社会推進課
長、溝口環境保全課長、藤本業務課長、安部施設課長、香具環境未来都市推進
室次長、塚本環境都市調整担当課長、池上環境産業担当課長、小田アジア低炭
素化センター担当課長、佐々木環境科学研究所次長

4. 議 題

(1) 審議事項

①北九州市環境基本計画策定について

5. 議事要旨

(1) 審議事項

北九州市環境基本計画の策定について、事務局からの修正案説明後、審議が行われた。

6. 議事録 (要旨)

(1) 審議事項

【会長】

本日もお忙しい中お集まりいただきまして、有難うございます。

環境基本計画の検討を続けておりますが、前回いただいたご意見を踏まえた修正案の報告と、新たに戦略プロジェクトの部分をご提案し、議論いただきます。

それに先立ちまして、現在第 4 次環境基本計画を国で検討している旨を以前説明いたしました。2 月中にはパブコメに入るというスケジュールとなっています。第 4 次計画のポイントについて説明申し上げます。

(国の第 4 次環境基本計画のポイントについて説明)

それでは、事務局から説明をお願いします。

北九州環境基本計画の策定について、総務課長より説明

【委員】

資料 1 基本計画の第 3 部について、初めに「現状と課題」があり、次に「施策の方向性」を記述する形となっているが、例えば、19 ページを見ると、「現状と課題」の中に、施策の方向性に関する記述がある。この辺りの整理をもう一度お願いしたい。

27 ページの(4)に「事業所の高効率エネルギーシステムの構築」とあるが、省エネルギーに関する内容が主であるので、「事業所のエネルギーシステムの低炭素化」という言葉にしてはどうか。

33 ページの(3)に「産業の環境化」があるが、国の基本計画にも「グリーン化」という言葉が使われている。ここも「産業のグリーン化」にしてはどうか。

【委員】

資料 1 の 3 ページの環境未来都市の説明の中に、「誰もが活力あるまち」という言葉があるがイメージが湧きにくい。「誰もが元気で、活力溢れるまち」の方が分かりやすいと思う。環境未来都市の提案に関する言葉なので変更が難しいとは思いますが検討していただきたい。

29 ページ、スマートグリッドの説明部分について、「通信技術等駆使し、電力供給の最適化を図る」とあるが、供給側だけではなく、需給・需要側も最適化を図らなければならないと思う。そこで、「電力供給・需給の最適化を図り」に変更してはどうか。

39 ページの(1)、(2)のところで、文章の最後に「環境の向上に努めます。」とあるが分かりにくい。別の言葉に置き換えられないか。

【委員】

20 ページの(5)のところで、環境教育と ESD についてももう少し整理していただきたい。

【会長】

ESD がそのまま環境教育ではないということ。つまり ESD の方が広い概念だと考えた方が良くと思う。その辺りの整理をもう一度お願いしたい。

【委員】

19 ページの優れた環境人財の育成のところで、環境学習ツアーの実施は非常に良いと思う。北九州には環境配慮型の製品をつくっている工場等がたくさんあるので、TOTO、安川、シャボン玉等の工場もこのツアーの中に入れて良いと思う。

もう一点は、LED という言葉が随分出てくるが、全て LED にするという意味ではないと思っているがいかがか。

【事務局】

街路灯等に LED を積極的に導入していくことを考えているが、確かに LED 以外にも環境に優しい照明もあるので、検討させていただく。

【委員】

前回、就学前の子どもについて意見を述べさせていただき、それが 18 ページから 20 ページに反映されていてありがたい。また、子どもから高齢者を、あらゆる世代で括ったことも納得いく。しかし、資料 2 の中の 2 ページに、「子どもより下の低年齢児から」という記述があるが、どういった思いで書かれたのか。

【事務局】

申し訳ない。言葉が分からなくて、乳幼児をこのような表現とした。

【委員】

小さいことだが、とても大きなことなのでよろしくお願ひしたい。

【委員】

9 ページ、それ以外のページにもあるが「人材」と「人財」が混在している。どちらかに統一した方が良いのではないか。

【会長】

それでは次に資料の 3 の戦略プロジェクトの推進について、ご意見はございませんか。

【委員】

「北九州市民環境力の持続的な発展」の戦略プロジェクトの中に、役割終了ということで削除され、新たなプロジェクトに移ったものがいくつかあったと思うが、この終了したプロジェクトの評価は行われたのか。

【事務局】

事業を終了したもの、あるいは事業は継続しているが戦略プロジェクトとしての役割を終えたものであるが、評価については、昨年環境審議会での 21 年度の評価を報告したが、その中で役割終了ということとさせていただいた。

【委員】

資料 3 の 5 ページのエコツアーのところ、(5)に「飲食・宿泊・土産」とあるが、少し違和感がある。「ツアー波及効果」などの言葉の方が良いのではないか。

資料 3 の 27 ページの地産地消・学校給食事業について、地産地消と学校給食を組み合わせ提案されていてとても興味深い。学校給食で食べ残し等の生ゴミが出てくるので、地産地消という入り口の部分と、生ゴミが循環するという出口の部分まで踏み込めると、教育にも繋がっていくのではないかと思う。

【事務局】

学校教育の中で地産地消を進めるとともに、どうしても排出される生ごみを堆肥化して活用してはどうかという話だと思うが、今年度からモデル事業として 3 校程度で実施している。

もうひとつは、リサイクルするので生ゴミを出しても良いといった話になるのは逆の話にもなるので、まずは、食材・材料の使い切り。それから出された料理の食べきりを市民の皆さんに進めていただきたいと考えている。26 ページの事業が連動するものである。

【委員】

大変うまくまとまっているが、生物多様性に係る基礎データがとても少ないという現状を気にしている。基礎データ収集に関する記述を加えた方が良いのではと思う。また、生物多様性の減少に対して緊急の対応が必要であるとの認識が何処かで出てくるような工夫をお願いしたい。

【委員】

子どもへの環境教育に関する記述として、資料3の3ページのESD推進、6ページの児童・生徒への環境教育・学習の推進があるが、就学前の子ども達の視点が抜けている。計画本文、戦略プロジェクトの中に文言や実効性のある内容を加えていただきたい。

【委員】

資料3の2ページ、環境首都検定の推進について、1の目的で「北九州市」が3度使われている。また、「北九州市を環境人材のメッカとする」とあるが、「メッカ」という言葉が合わない気がする。

4の事業展開のところで、「高得点獲得者を活用する仕組みづくり」とあるが、検定の高得点者に活躍できる場を提供するのか。

【事務局】

言葉については、検討させていただく。

高得点を取られた方々には、環境のエコツアーや環境の講座などで協力いただけるような人材を育てていきたいと思っており、そのような表現とした。

【委員】

数値目標は、北九州市がどういうことを考えているのかを表すものであり、できれば一括で見やすく整理した方が良い。また、単位統一した方がわかりやすい。

【委員】

これまで、環境修学旅行を誘致されていたが、現在でも続けているのか。

【事務局】

産業経済局観光課で行っているが、受入れ工場のキャパシティの問題、ガイドの育成など、こちら側の能力を上げていかなければならないという状況にある。

【委員】

今の意見に関連して、キャパシティの問題は確かにあるが、企業側はCSR(corporate social responsibility)と呼んでいる。見学していただくのは非常にありがたい半面、コストもかかる。市の賑わいづくりという点も踏まえて、受入れ工場を増やすことと、コスト面も上手なやり方を

考えていただきたいと思う。

【委員】

資料 1 にもどるが、18 ページに新たな施策分野として、「事業者の環境活動の推進」が追加されたが、持続可能な社会をどう実現していくかという部分で期待や貢献という表現で終わっている。CO₂ を削減するため、事業者にどのような推進を行うのかについて、より明確に記述することが必要ではないか。

【委員】

21 ページの次世代エネルギーパークについて、ソフト、ハード両面の充実が必要だと思うが、ソフト面の充実に関する記載が少ないと思う。「エコフロンティアパークの充実」と重なる点もあると思うので、整理していただきたい。

事業展開予定に関して、企業立地の部分はほとんどが民間企業となっている。行政として、新たなエネルギーについても検討していただきたい。

【委員】

25 ページの戦略プロジェクトについて、一つ目の建設リサイクルの資材認定資材はとても重要で、全国的にも困っている問題なので、大いに進めていただきたいと思う。

2つ目の「建設副産物の発生抑制再資源化」について、目標が 100% に対し現状が 99% とほぼ達成している。質に取り組むなど北九州らしさを出していただきたいと思うが、ここで 100% という目標を出す必要があるかについて検討していただきたい。

【委員】

基本計画本文(資料1の 20 ページ)に、「市民センター等を利用した ESD」の文言が記載されたことは良かった。しかし、戦略プロジェクトの中に、カリキュラムなど具体的な内容が見あたらないので、記述を検討していただきたい。

【委員】

この第 4 部は第 3 部を受けているので、できれば第 3 部の基本施策の展開、その必然性としてのプロジェクト展開といったストーリーになるように検討していただきたい。

【会長】

ありがとうございました。出されたご意見を元に、さらに良いものが出来ると思います。

【事務局】

本日はお忙しい中ご出席いただき、また、貴重なご意見をたくさんいただきまして、誠にありがとうございました。本日ご議論いただきました内容を踏まえて修正を行ったうえで、まだご報告していない部分を加えた形で、次回の審議会に報告をさせていただきたいと考えております。